

広島市スポーツ振興計画の見直しの視点等について

1 見直しの視点

平成27年度に2回開催した計画見直し検討部会における審議結果を踏まえ、次の視点で計画の見直し案（たたき台）を作成した。

(1) 健康寿命の延伸の必要性

平成22年度の広島市の男性の平均寿命は79.93年、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は69.96年で、その差が9.97年となっている。同様に、女性では、平均寿命と健康寿命の差が14.67年である。なお、全国の平均寿命と健康寿命の差は、男性が9.13年、女性が12.68年となっている。

広島市の平均寿命は、男性・女性とも全国よりも長く、健康寿命は、男性・女性とも全国よりも短い。このため、広島市の平均寿命と健康寿命の差は、全国よりも大きくなっている。

こうした状況を広く市民に周知し、市民一人一人が、生涯を通じて心身ともに健康で自立した生活を送ることができるよう、身近な所でスポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づける取組が必要となる。

現行計画において、既に健康寿命の延伸に寄与する取組は実施しているが、今後は、健康福祉部局と連携して、これまで以上に健康寿命の延伸を目標とした取組を効率的かつ効果的に推進することとする。

具体的な取組の例示は以下のとおり。

ア スポーツ推進委員や町内会等の地域の関係団体と連携して、気軽にニュースポーツや通年でラジオ体操を行うことができる環境づくりを行う。

イ 通勤、通学及び日常的な買物等における自転車の利用を促進する。

ウ スポーツができる器具等の設置等により身近な公園等を運動やスポーツができる環境にする。

(2) 東京オリンピック・パラリンピック開催を契機としたスポーツに対する市民意識の高揚

この計画の目標年度が、折りしも、東京オリンピック・パラリンピックの開催年に当たることから、同大会の開催を契機とした広島市のスポーツ振興を図る取組を実施する。

具体的には、以下の施策を行う。

ア ナショナルチームの事前合宿の誘致を行い、世界のプレーを目の当たりにできる機会を創出する。

イ 市民の気運を醸成し、スポーツに親しむ市民の数を増加させることにより、健康増進を図る。

ウ ジュニア選手が自らの競技力を高めようとする意欲を高めることにつながる取組（世界のトップのプレーを観る機会等の提供等）を実施する。

2 数値目標の見直し

(1) 上記1の取組を踏まえた数値目標の見直し

ア 数値目標1

平成26年度の進捗状況は51.3%であり、数値目標の65%と比べて10ポイント以上の差があるが、平成23年度以降増加傾向にある。

今後、上記1の取組を実施することにより、健康寿命の延伸を図るとともに、スポーツに親しむ市民を増加させる必要があることから、市民の意識喚起も含めて数値目標を70%に引き上げることとする。

(2) 現行計画の数値目標が既に達成されたこと等による数値目標の見直し

ア 数値目標2

既に数値目標を達成していることから、数値目標の見直しを検討する。

現行計画の算出方法は、広島市の平均値が全国の平均値を上回る種目数（8種目）を基準としており、種目数が少ないため自ずと各年度の結果にばらつきがでることとなる。

数値目標の設定について、他の算出方法の検討を行ったが、子どもの体力向上の状況を計る指標として適当なものはなかった。

以上のことから、今後も現行計画の目標数値を踏襲することとし、既に数値目標を達成していることから、広島市の平均値が全国の平均値を上回る種目数を1種目増やすことを新たな目標として、数値目標を現在の50%から65%に引き上げることとする。

イ 数値目標3

現行計画の数値目標は、「広島県選手」を広島県代表選手、「広島市選手」を広島市在住選手のみカウントしていたため、「広島市選手」に「ふるさと選手」は含めていなかった。

「広島県選手」の中には広島市をふるさと登録する「ふるさと選手」が多数存在するため、今後、新たに「ふるさと選手」に対するサポート体制の構築に取り組むこととし、数値目標の「広島市選手」に「ふるさと選手」を加えた算出方法に変更することとする。

「ふるさと選手」を含めた場合、平成26年度は57.7%であり、現行の数値目標の50%を超過することとなるため、数値目標を70%に引き上げることとする。